

【認定技術研修会シラバス】 2016.2.14 更新

研修科目	福祉用具を活用した住宅環境調整について	履修時間	60分
到達目標	自立支援を目的とした福祉用具の利用方法や住宅環境調整の基礎知識を習得する。		
概要	福祉用具の活用方法等(福祉用具・制度)と、住宅改修を踏まえた住宅環境調整の実例を紹介する。		
講師	認定訪問療法士または外部講師		
内容	訪問リハビリテーションで活用される福祉用具の紹介 福祉用具、住宅改修に必要な制度の理解 福祉用具利用のポイント 住宅改修のポイント 事例紹介 など		

研修科目	訪問リハビリテーションにおけるリスクマネジメント	履修時間	90分
到達目標	訪問リハビリテーションにおけるリスクを予知し、リスク回避の技術と手法を学ぶことでリスク感性を高める。		
概要	グループワーク形式での危険予知トレーニングを通して、対象疾患および生活背景から潜在するリスクの列挙、また支援方法の視点を学ぶ。		
講師	認定訪問療法士または外部講師		
内容	演習 「危険予知トレーニング(6事例)」 (住環境、転倒・転落、医療機器、全身状態、個人情報・書類管理等)		

研修科目	摂食・嚥下障害への対応	履修時間	90分
到達目標	摂食嚥下障害の評価とアプローチの概要がわかる 障害が疑われる場合に簡便なスクリーニングテストが試行できる リスク管理の概要がわかる		
概要	摂食・嚥下障害の基礎知識を再確認し評価・アプローチ方法について解説し、簡便に行える「スクリーニングテスト」を模擬的に実習形式で行い、理解を含めていただく。		
講師	認定訪問療法士または外部講師(言語聴覚士)		
内容	摂食嚥下障害総論 訪問現場で実施可能なスクリーニング検査等 摂食嚥下リハビリテーションの実施(間接的、直接的アプローチ)		

研修科目	精神障害・認知症への対応	履修時間	90分
到達目標	精神障害もしくは認知症の症状がみられる訪問リハ利用者、ご家族や介護者に適切に対応できる。また利用者のペースを尊重した会話技術や実践能力を高めることを目標とする。		
概要	訪問リハビリテーションにおいて在宅生活を送る認知症者や精神疾患を持つ方々に出会うことも多くなることが予測される。ここでは、在宅生活者に多く見られる精神症状と認知症症状の基礎知識を理解するための講義を行う。		
講師	認定訪問療法士または外部講師(作業療法士)		
内容	講義: ・精神障害概論 ・認知症概論 ・行動心理症状(BPSD) 実技: ・認知行動療法 ・回想法 等		

研修科目	フィジカル・アセスメント	履修時間	120分
到達目標	訪問リハビリテーション実施時に直面する利用者の徴候、普段の状態との違いについて察知し、症状と徴候から緊急度の判断ができる能力を高める。		
概要	フィジカル・アセスメントの必要性を理解し、基本的な手法を通して学ぶ。実技は二人一組のボディを基本として、被験者・験者の双方を体験する。		
講師	外部講師(医師)		
内容	概論・問診: 利用者の顔色の変化や訴え、バイタルサインの変化について 視診: チアノーゼ、浮腫、黄疸、斑点などを画像にて診る 触診: 脈、浮腫、腹痛、腹部膨満、便秘について 打診: 胸部、腹部の大きさ、臓器の圧痛について 聴診: 呼吸困難、喘鳴、胸痛について		

研修科目	呼吸器障害への対応	履修時間	180分
到達目標	呼吸器障害の病態および基礎的な呼吸器系の構造を理解し、安全で効果的な呼吸リハビリおよび運動負荷に対する知識を習得する		
概要	呼吸器障害の訪問リハビリの必要性を理解し、聴診等の基本的な評価手技および呼吸介助・呼吸筋リラクゼーション手技の基本を学ぶ。また、呼吸状態にあわせた運動処方とリスク管理方法を理解する。		
講師	認定訪問療法士または外部講師(理学療法士)		
内容	呼吸器障害の訪問リハ(総論) 在宅酸素療法と人工呼吸器の基礎知識 呼吸器リハに必要な臨床評価 運動処方の評価と注意点 聴診法・打診法・触診法の演習 呼吸(喀痰)介助、胸郭・呼吸筋リラクゼーション手技 など		

研修科目	一次救命救急処置	履修時間	150分
到達目標	不測の事態に適切な対応ができるよう、胸骨圧迫法、人工呼吸からなる心肺蘇生法およびAEDの使用方法を理解し、一連の救命処置法・手技を習得(体験)する。		
概要	一次救命処置の目的およびその効果を理解し、要救命者の発見から一時救命処置対応までの一連の流れを学ぶ。		
講師	認定訪問療法士または外部講師		
内容	講義 一次救命処置の必要性と理解(総論) 実技 「要救命者の発見から一次救命処置対応までの一連の流れについて」 「心肺蘇生法(人工呼吸と胸骨マッサージ、AED使用方法等)の実技」		